

ガーナを訪問して

岩月彩香

まず、最初に訪れた University of Cape Coast では、キャンパスを少し探索した後、半日かけて UCC の学生が集めたデータを Excel に打ち込む作業を行なった。アンケートを行う際基本情報としてどのような情報を聞くべきであるのか、実際に行なわれたアンケートとその回答を見ることができ勉強になった。また、UCC で教育を学んでいる M2 の学生と話すことができた。彼は PhD を取りに日本に来たいということで、9 月卒業にも関わらずもうすでに修士論文を書き始めておりモチベーションがとても高く、留学のことも既に色々と考え始めていて、その研究に対する姿勢を尊敬すると同時に、自分も更に頑張らなくてはと思った。

5 日目からは首都アクラに移動し、UNDP、JICA、野口記念医学研究所、UNICEF といった機関で、国際開発分野を中心にガーナで活躍しているたくさんの日本人の方にお会いしお話を伺うことができた。政治経済・教育・開発等様々な分野のエキスパートの方にお会いすることができ、お話を伺っているだけでとてもたくさんのことを学ぶことができた。同時に自分のあまりの知識のなさにも改めて気づき、教育開発について学ぶことはもちろん、もっと色々なことに興味を持ち様々な分野の知識を持つことも大切だと感じた。また、特に JICA で働いていらっしゃる小田さんが「援助なんていうけど、私たちがフィールドに行ったら助けられているのはこっちの方だよ」とおっしゃっていたのがとても印象的だった。このガーナでの滞在は、現地で会った日本人の方、アクラ地域で Circuit Supervisor をやっている方、訪れた学校の先生、GES に勤めていらっしゃる方等、たくさんの現地の方に助けられ無事終えることができたので、本当に小田さんのおっしゃっていた通りで、助けて頂いた方々には本当にお世話になり感謝している。

帰国までの最後の 2 日間は La St. Paul Anglican Primary School を訪れ、終日授業観察と先生方へのインタビューを行った。アフリカでは実際にどのように授業が運営されているのか初めて見ることができ、本当にたくさんのことを学ぶことができた。

ガーナでは、教授言語についての法律が、1974 年から 2002 年までは前期初等教育は現地語・後期初等教育以降は英語、2002 年から 2007 年までは全教育課程において英語、2007 年からは前期初等教育で現地語と英語・後期初等教育以降は英語、と比較的短期間で頻繁に変わっているため、当初はこの法改正が教室レベルで先生たちにどのように捉えられ実践されているのかを検証する予定であった。しかし、学校訪問をする前に現地で出会った Circuit Supervisor の方に、「教授言語はいつの時代でも現地語と英語だ。」と言われ、現場では法改正はあまり把握されていないようだったので、急きよ教室においてどのように言語が使用されているのかに重点を置いて学校訪問を行なった。

生徒と主に先生が、どのような場面でどのように英語と現地語を使い分けているのかを中心に、2日間かけて小学校1・2年生のクラスを重点的に観察し、参考程度に高学年のクラスも観察させてもらった。また、観察させてもらったクラスの先生4名へのインタビューも行なった。生徒には個人的に少し話を聞き、クラス全体に対して誰が何語を話すのかといった基本情報を、手を挙げてもらって聞いたのみである。

現地語と英語の同時使用について、法律においては現地語使用の補助的役割としての英語の役割が述べられているが、先生方へのインタビューからは、英語使用における補助的役割として現地語を使っているとの見解があった。しかし、現地語、または英語が生徒の理解を促進するための補助的役割を果たすこと（英語で説明したことを現地語で言い直す等）は先生が生徒全体に向かって話している場合には多くなく、現地語をクラス全体に向かって用いた場合、補助的役割を果たしているのは2日間の授業観察のうち12回（1年生で5回、2年生で7回）のみであった。2年生のクラスの担任教師はどの生徒がGaを話さないのかも把握しきれていない状況であった。教師・生徒共に少し疲れてきているからか1日のうち終盤の授業においては現地語利用の割合が高くなり、また授業全般において、先生と生徒が1対1または比較的少数のグループで話す場合と冗談などを言う場合に現地語が多く用いられていた。

今後授業観察を自分の研究調査における手法のひとつとして取り入れる上で、授業観察をきちんと行うために学ぶことがとても多いことに改めて気付いた。また、今まで教授言語問題に興味を持って研究に取り組んできたが、幅広い教授言語問題という研究課題の中でも自分がどの分野に特に興味があるのか自分でも掴み切れていなかったように思うが、今回実際に授業観察と先生や生徒へのインタビューをさせてもらったことで、自分が興味のある部分がどこなのか以前よりもはっきりとわかった気がする。今後の課題としては、授業観察の様々な方法を学び、自分の研究に合ったものを確立すること。インタビュー方法を更に学び、そして慣れること。教室レベルで行なわれた実験、特にコードスイッチングについての文献をもっと読むこと。現地語をどの言語を使っているのか聞き取れる程度にはマスターすること等が挙げられるかと思う。今回の貴重な体験をこれからの自分の研究にきちんと役立てていきたい。

(表1) 観察をさせてもらった授業一覧

1 年 生	11月 8日		08:05-09:08	09:20-09:43 10:14-11:39	12:22-13:25	13:25-14:10	
			Math	Language and Literacy	ICT	Science	
	先生		Doris	Jackie	Doris	Doris	
2 年 生	11月 9日	08:02-08:25	08:26-09:43	10:11-11:31	11:36-12:14 12:31-13:43	13:47-14:08	14:08-14:29
		Assignmen t correction	English (Language and Literacy)	Math	ICT	Natural Science	Closing session
	先生		Veronica	Naomi	Veronica	Naomi	

(表2) インタビューを行なわせてもらった先生の基本情報

名前	Doris Oduraa	Jacqueline Borteyefco	Veronica Oware	Naomi
性別	女性	女性	女性	女性
年齢	45	46	43	27
出身地	Kukurantymi (Eastern)	Accra	Osino (Eastern)	Ada (Great Accra)
母国語	Twi	Ga, Twi	Twi	Twi
最も得意な 言語	Twi	Ga	Twi	The same in all
他に話すこと ができる言語	Ga English	English	Ga English Dangme	Ga English Dangme
担当科目	Math ICT Natural Science	Language and Literacy Creative Arts RME	Language and Literacy RME ICT	Math Science Creative Arts
担当学年	1	1	2	2
勤務年数 (本学校/総合)	2/20	4/23	3/20	1/7

(表3) 観察を行わせてもらったクラスの言語的基本情報

学年	1		2	
全体生徒数	41		55	
Ga を話す生徒数	38		45	
Ga を話さない 生徒の内訳	Twi+Ewe	1	Twi	8
	Adan	2	Adan	2